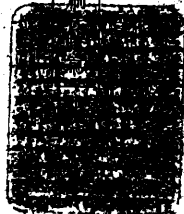


ロ
ー
タ
リ



水
嶋
峻
一
郎

以
印
刷



17

ロータリー旅行記

昭和十年四月サットン氏一行に随伴し、
十二日間に十倶楽部を歴訪した日記で
あります、どうか一度読んで下さい。

水嶋峻一郎

ロータリー旅行記

我一行トム・サットン氏と夫人、次女ミス・コンチータ・サットン、其友人ミス・マーガレット・スエットランド及筆者

四月十八日サットン一行來着、其夜東京の有志歡迎會があつたとき、此の一行今後の旅行に誰れかついて行く必要ありとし、遂に私が其役を仰せ付かつた。しかし滿洲から歸へつたばかりなので、せめて二日の猶豫を得て、大阪で一行に合する事にした。

出發

翌十九日の夜、京濱連合家族會を終つて、トム一行を横濱驛に見送つた時、夫人の健康が此旅行に堪へ得るかを疑がつた。實際今度の旅程は夫人向きでない、休養なき十二日間のビジネス旅行だから、中途に故障が出來そうで、私には



四月十八日ツサント一行と東京ロータリー有志

大なる不安があつた。

二十一日の朝私は大阪に着き、ホテルで一行に會つた。夫人等は案外に元氣がよく、私の來着を悦んでくれた。きのふは大阪の本邸で、園遊會があつた。

大阪は此日滿洲皇帝を迎へて、忙かしいのだ。そうだ、驛へは露口宮内の兩君が見送りに來た。けであつたが、三宮驛には村田令嬢、神戸驛には前田夫人が見送つて、我一行を賑はした。特急富士號の展望車から、移り行く晩春の景色

を眺め行けば、忽ちにして海となり山となり、咲き残る櫻に燃ゆる躑躅と、應接にいとまがない。トムとは一別以來の話が、とめどもなくつゞく。

廣島ロータリー俱樂部

廣島驛には、堀田會長を初め、多數の會員と夫人の出迎へを受け、明日の再會を約して宮嶋に向つた。同地は近日、滿洲皇帝御上陸の爲めに、今朝來警戒極めて嚴重となり、手荷物は勿論、身體検査まですると云ふので、廣島でも心配して居つたが、こゝに待ち受けた井原氏の盡力と、東京で東郷君の用意してくれた、外務省の書面は、無事に一切を解決して用意のモーターボートは、翠色滴らんとする宮嶋に、我一行を運んだ。風景の美は言ふも更なり、ホテルの設備も宜く、鹿も鳩もなれて可愛ゆく、賣店のお行儀さへよい、杓子の手紙は面白いと、トム等はシカゴの本部其他へ、盛んに書き送つた。チエスベリーは何のことかと、定めて驚くことだろう。



四月二十二日宮島岩惣にて廣島ロータリー倶楽部家族會

翌二十二日の午前廣島の會員等は我ホテルに集まり、相伴ふて公園をあるいた、同地の夫人等は巧にも、爛漫たる八重櫻の下に我等を迎へた、日本服と櫻は調和がよい。

歓迎午餐會は、岩惣の廣間に開かれ、日本料理の御馳走であつたが、主人側の注意宜く、パンもあればフライド・ロブスターもあつた、會長の歓迎辭について、トムは此和やかな會合にふさはしく、國際友誼を語つて、多大の感銘を與へ

た。

それから一同は、モーターボートで宮嶋を半周し、相接する小さい龜嶋に上つた、全山は躑躅と卯の花に満ちて、其美觀は形容の言葉がない、トムはこんな美しい世界を初めて見たと言つた。

再び乗るボートの中には、熱つい紅茶とお菓子が用意せられて、美しい見物のあと甘まいお菓子を以て、有終の美をなした。

午後五時、我ボートは宮嶋驛に着き、見送る人々に、あまた、び感謝の言葉を繰返しつゝ、西行車上の人となつた。

門司のロータリヤン

急行の途上小郡驛で、思ひがけなきお出迎ひに會つた、ロータリヤン深浦か、山陽ホテルの支配人を遣したのだ、門司俱樂部も中々やるわいと感心した、下の關驛には多數の會員が待ち受け、山陽ホテルの廣間は、一行の爲めに用意せ

られて居つた、ますますやるわいである。門司訪問は豫定にはなかつたけれども懇請容れざるべからず、五月一日福岡からの歸途、立寄ることに約束した。

トム等を新しき友に托し、私は娘達をつれて、夜の下の關を見物した。お白粉クリームお買入の通辯は、少なからず閉口したが、是も必用の事であるから致方はない。

午後十時諸友に送られて乗船した。玄海灘の波も靜かに、美しい月夜であつた。

釜山ロータリー俱樂部

四月二十三日午前六時半、我景福丸は釜山に着いた。時間どうりの發着ぶりは、トムの大に感心したところである。埠頭には釜山の會員數名が出迎へて、豫期しなかつた一行を悦ばした。市内見物をすゝめたけれども、トムは寧ろ會談を希望し、發車迄一時間餘展望車内に相語り、俱樂部の發展を祝して別れた。

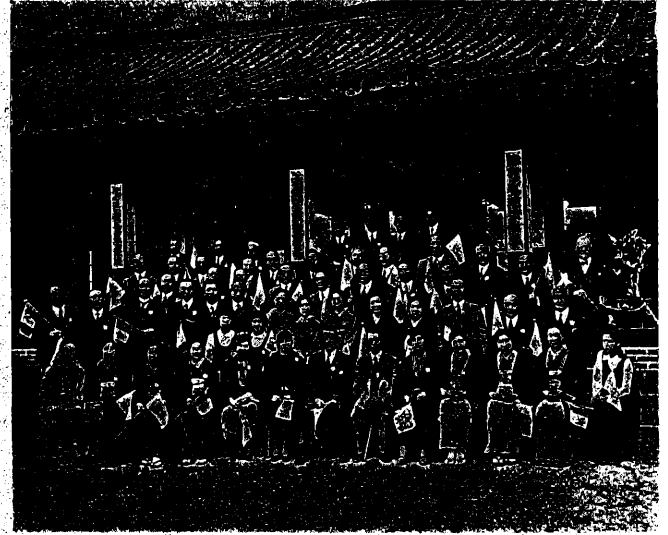
京城ロータリー俱樂部

朝鮮の山河も今や春正に更はである。沿道に耕地を掘りおこして、砂金を採る處が多い。ゴールドラッシュの世の中だ。

午後三時半京城では、多くの會員に出迎へられ、直ちに朝鮮ホテルに入つた。しかし五時から園遊會だと云ふことで、落ちついて居る閑はない。

丹羽君の案内で自動車を下り、三町ばかり狭まくて古るい町を歩いて、會場に達した。入口には紅白の幕を張り、門口には、welcome の額が掲げてある。石階幾級を攀づれば、廣き庭に幾十株の櫻が、今を盛りと咲きそろう。東京の花に後れた憾みを、此處で償ふものゝようだ。

此クラブは、トムが先年來た處であるから、集まる會員も家族にも、舊識が多く、挨拶がながい。園内の圓卓に主客相交り、所謂 sixteen course の支那料理を飽食した。落花は飛んで盃の中にも浮び、汁も繪も櫻かなと言ふべき風情である。柳

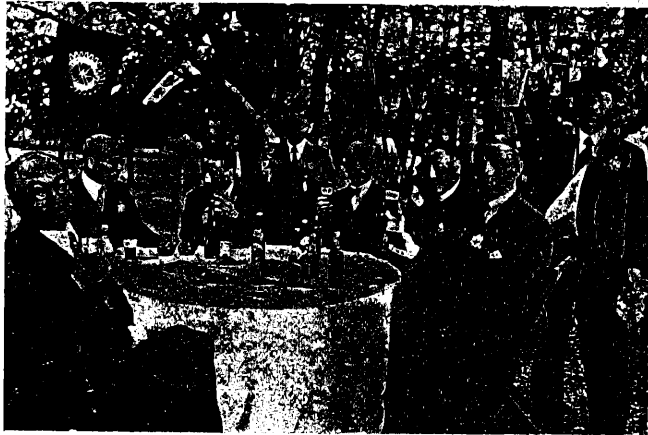


行一ントツサるけに於に城京日三十二月四
 (園庭社會燈電城京) 會遊園迎歡

樂副會長の歡迎辭に對し、
 トムは會遊を回想し、今日
 の發達を祝した。ピールの
 グラスは幾度かクリンク
 して、歡會は尙つゝいたが
 夕暮れの風やゝ寒く、武者
 君の案内でレデイス達は、
 庭内の朝鮮式家屋に入つ
 て休憩した。こゝは近代式
 に設備してあつたが、それ
 でもランドルの方が珍ら
 しい經驗であつたようだ。
 二十四日の午前は丹羽

君の案内で、先づ市内見物、三越での
 買物と屋上の展望、こゝでは加藤君
 が歡待してくれた。それから故王の
 宮殿秘園に自動車を駛せた。娘達の
 最も悦んだのは、城内の動物園に河
 馬の赤ん坊を見た事であつた。河馬
 の子は犬の様にうづくまり、口にお
 芋を入れてやると、嬉しそうに頭を
 撫でさせた。

正午銀行集會所のロータリー例
 會では、森會長は歡迎の辭と共に、ト
 ムに紀念品を贈つた。トムの演説は、
 國際ロータリーの機構を説明し、傾



行一ントツサるけに於に城京日三十二月四
 (園庭社會燈電城京) 會遊園迎歡

聽に値ひするものであつた。

かくて我一行は午後三時半京城を發じて一路奉天に向つた。

横濱の吉田君は同車じしばらく語つて相別れた平壤通過後私共が食堂車に居るときマーガレットの坐席の窓に投石したものがあつた二重窓の内側は破れず幸にも怪我はなかつたマジジは聲もたてず落付いて居つたが最もあわてたのは恐らく私であつたらう。

安東の旅券と手荷物検査は午前一時である爲め外客の閉口するところであるしかし此度はツーリストの諸君が來て呉れたし外務省の書面があつたので私のみ起きて通過し得た。

奉天ロータリー俱樂部

四月二十五日午前六時半眠むがる娘達を起して奉天につく早朝にも拘はらず會員出迎へて共にホテルに入つた此地のプログラムに従ひ先づバラ



四月二十五日奉天ロータリー俱樂部例會
(奉天マホテル玄関) 歓迎會

タイン邸米國總領事館に朝食し、そのあと北陵と支那街とを見物した北陵は修理せられて面目を新にして居る前庭の石象は先年トム等と撮影した所で七年ぶりの對面である、青草離々たる内庭にはタンポ、スミレの花ざかりであつた。

正午ヤマトホテルのロータリー例會では奥山會長莊重なる言葉を以て我七十區がトムに負ふ處多きを謝した、トムは先年來遊の際に俱樂部のなか

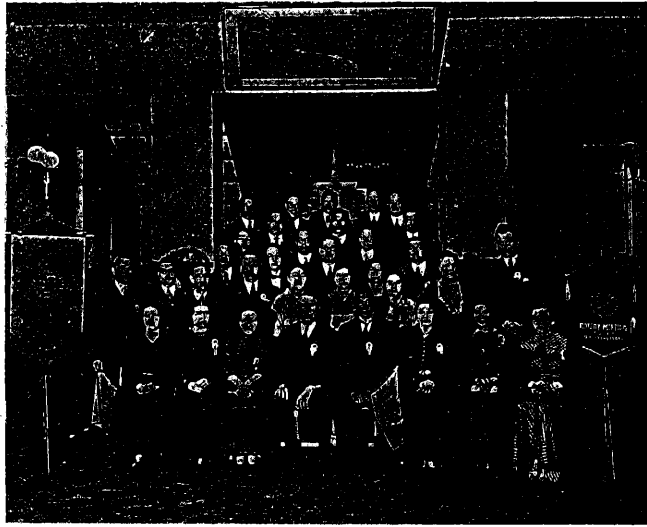
りし此地に於て今日かゝる歓迎を受くるは、最も大なる幸福なりとし、更にロ
ーターリ本部の機構に付いて語つた。伊藤幹事は巧に之を通譯して、満場の喝
采を博した。

我レデースは又バランタイン邸に、午餐の饗應を受け、私共がホテル前庭に
撮影せんとする時、歸り來つて晝中に入つた。

我一行は忙しい旅程に従がつて午後一時五十分奉天を出發し、國都新京に
向つた。

新京ロータリー俱樂部

急行列車「アジア」は最新式流線型といふ、滿鐵お自慢のもので、速力もはやく
乗心地もよい。天氣も申分なき快晴で、車内は上衣を脱いだ程暖かい。沿道至る
ところ兵士が立つて居り、各驛の警戒唯事ならずと見へたが、明後日滿洲皇帝
御歸還に對する警備の豫行であつたさうだ。



四月二十五日新京ロータリー俱樂部開催ツツ行
(新東京ホテル) 家族迎歡

新京驛に出迎へた會員の
中には、今迄滞在して居つた
かと私に尋ねた人もあつた。
一月の中に二度も此處迄來
ようとは、誰れも思ひよらぬ
事であらう。

午後五時半にホテルに着
いて、七時に家族晚餐會であ
るから、デースは着かへす
る丈けでも忙しいしかしト
ムは會員の勧めに従つて、新
京見物に出かけた。

此ホテルのロータリヤン

千葉は、一行の爲めに最上の部屋を用意し、私には先日滞在した部屋を呉れたから、唯一夜の宿とも思はず、椅子もテーブルもお馴染であつた。

晚餐前の廣間の集りに、トムも夫人等も、新しき友の包圍の中にあつた、私は總領事吉澤氏の夫人からどうもしばらくと挨拶されて驚いた、聞けば昔の武藤令嬢で、美々しい夜會服の夫人に幼ないおカツパ姿の面影を見出し、其奇遇を悦こんだ。

此夜別室の食堂は、美事に飾られ、晚餐會はこゝに開かれた、副會長阮振鐸君（今度の文部大臣）の支那語の歡迎演説は、ユースト君によつて英譯されたが、トムには支那語は珍らしい経験であり、又滿洲大官からロータリーを聴く、唯一の機會でもあつた、トムは滿洲の國都に於て、如此歡迎を受くる事は、ロータリーにのみ與へらるゝ特權なりとし、更に進んで國際間の了解と友誼を助長すべきを説き、深き感銘を與へた、食後の余興たる、滿洲皇帝の訪日と蒙古の景色、風俗の活動寫眞は、川崎氏の上手な英語説明で、一同夜の更くるを忘れ、楽しんで

だ。

此日は朝早く起き、夜はおそく迄、奉天新京の會合に出席し、しかも明朝は哈爾濱に行く、と云ふ、最も困難なる旅程であるが、幸にも我レデースは甚だ元氣で私の心配が單なる杞憂となつた事は、ロータリーの爲に祝すべきであらう。

哈爾濱ロータリー俱樂部

四月二十六日午前九時二十分、雨ふりの新京を出發した、沿道は尙冬枯のままで、滿目荒涼として、山さへ見へない、此單調を破るものは、旅行券の検査である、先づ滿鐵の車掌とボーイがくる、次は銃を持つた陸軍の兵卒が檢める、而して最後に鐵路總局の露滿聯合軍は、ロシア語で尋問する、何故みなそろつて一度に片付けないのか、大に理屈の言ひたいところであるけれども、私の役目は煩しさを一行に感じさせまい爲めだから、何遍でも丁寧、彼等の愚問に答へる外はなかつた。

雨はいつしか雪と變し、午後三時哈爾濱についた時は吹雪の最中で、我等は零下五度の寒さにふるへた、瞬には金井會長初め數氏の出迎へがあり、直ちに此地の**プロケラム**によつて、市内の主なる處を見物した、雪は盛にふりしきり、幾度か自動車を停めて窓を掃ふた、漸く今宵の宿の**ホテルモデルン**に着いて、私共の第一の仕事は、熱茶をすする事であつた。

雪の降り止んだ午後七時に、家族會々場の日滿俱樂部に自動車を驅つた、ここに集ふ多くの會員家族は、我一行を取かこんで、賑やかに歡談した、此俱樂部は九ヶ國の人の集まりで、我七十區中の異色であると共に、**ソビエツト**にロータリーなき今日、露語を語る世界唯一の俱樂部である。

今宵しも此處の**パンケツトホール**は、美しき花に飾られ居並ぶ**レーデス**の多い事は、一段の光彩を添へた、露西亞料理は**ザクースカ**前菜、丈けども食べきれない**ライツカ**の乾盃は至る處で**プロボーズ**されて居る、此賑やかな晩餐は、金井會長の英語**ラストロモフ**君の露語、**ヘーグ**君の英語、**ブイアノスキー**君の露

語演説によつて、更に多様な色彩を發揮した、中にも**ラストロモフ**君は最も雄辯に、**トム**等の來訪を大なる感激なりとし、又將來**ロシア**にも、**ロータリー**の普及せん事を祈ると言つた、彼の美辭麗句は詩を朗吟する如く、快よく響いた、**トム**は和やかな調子で國際の親善を説いた、彼は多年種々の會合に出席したけれども、今夜の如く多くの歡迎演説をされた事はないと言つた、又露語を通して、**ロシア**に**ロータリー**を擴むる事は、此俱樂部の最大義務だとも言つた、此夜の彼の演説は上出来であつたが、聽く人も亦熱心なるよい聞き手であつた。

此地の會員**ルドルフ・ヘニー**君は、**チエツコスロバツキア**の領事で、今春私等と共に、**マニラ**大會に出席した人である、私か**トム**を紹介し、彼も亦**メキシコ**に於ける**チエツコ**の名譽領事であると言つたとき、**ヘニー**の達磨の様な顔は喜びに溢れ、今夜是非自分の家に招かねばならぬ、同僚を歡待するは祖國に對する義務であると主張し、晩餐が終るや否や、其場にある人々をも誘ふて彼の家に案内した、不意の事で何の設けもないと言つたが、彼の廣問は立派に飾られ、

王公を迎ふる用意も之に過ぎまいと思はれた、其食堂はイースタムの前夜とて、美事なる大きな菓子色々に彩られた卵、大小の酒杯等が、テーブルばいに並べてあつた、集まり來つた客二十餘人、この乾盃は文字通りに、一いきにやるのだからたまらぬじかも甘まい文句を付けて、プロボースされては、乾盃しないわけにゆかね、ヘニーは又色々の酒をすゝめて、トムも私も大いにまいつた、此地の今夜は十二時過ぎから、教會に行くのだそうだが、私等は明朝出立の豫定であるから、ヘニーの歡待を深く感謝して宿に歸つた。

哈爾賓—新京—大連

四月二十七日は雪こそ降らねど寒い日であつた、午前九時出發のハルビン驛は、疾風砂塵を飛ばして佇立に堪えず、見送りの人々に相濟まぬとは思つたが、我等は車内に入り、窓越しにハンカチーフ振りつゝ別れた。

古るいワゴンリーの客車は天井が高く、甚だ寒い、例のうるさい旅券検査

が終ると、幸にも食堂車の暖かなをを發見し、一同はあつちいスリーブに寒さをしのいだ。

風は次第に強く、すさまじい勢いで正面から吹つけ、しばらくは緩速力で進む程であつた、トムは汽關車が古い爲だと云つたけれども、實際は横から吹いたら危険な位の風速であつた、この爲に我列車は二時間餘も後れて、寛城子に着いたのは午後五時、次ぎの新京驛は、皇帝陛下御歸着の爲め、列車を入せず、二時間位は此處に立往生と云ふ事となつた、一期の苦艱と思つた其時、不思議にもブラットホームに、新京のユースト君が現はれ、ヤマトホテルのポーターも走つて來た、新京驛に、出迎へんとして、列車の延着を聞き、自動車をもつて迎へに來たと云ふ、それとばかりに一同は元氣づいて、手にく荷物をひつさけ、自動車二臺に分乗した、しかし喜こんだのも束の間で、驛を出てからの道は何と云つて形容すべきか、支那馬車が通るから道と云ふのであらうが、其泥濘と凹凸は、川原よりも山よりもひどい、天下これ以上の惡路はあるまい、娘達

を乗せて先行するユーストの自動車は右にゆれ左に傾くを見てハラ／＼した。しかし彼の巧みなる操縦は遂に難所を突破し、つゞく我等の自動車も無難に、新京への舗装道路に達した時は、一同覺へず歡聲を上げた。其夜はホテルにユースト夫妻を招いて晚餐を共にし、ポーターと運轉手にも、厚く其勞をねぎらつた。

豫定は嚴格なる命令者である。私共は即夜八時に、新京を發して大連に向つた。驛には奉迎に來た人々の、其任所へ歸るもの、非常な混雜であつたが、ツーリストのおかげで、私等は萬事OKであつた。

翌早朝普蘭店での旅券検査は、私だけ起きて相濟み、おかげで沿道の曉色を楽しんだ。南滿は樹木も多く、耕地の手入れも行届き、北滿とは大變な違ひである。

大連ロータリー俱樂部

四月二十八日午前八時大連につく。こゝには古澤君の如き古顔が、先達になつて出迎へて呉れた。一昨日來の苦しい旅行も、こゝまで來ればもう大丈夫だ。ホテルの朝食には、みんな晴々しい顔を見せ、しかも暖かな日和は、身も心もものび／＼させた。

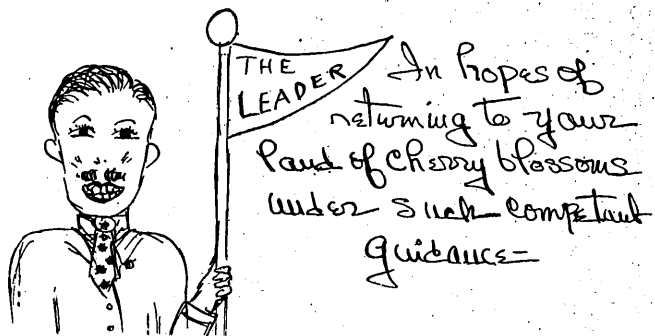
午前十時半、坦々たる旅順街道に自動車を馳せ、と云つても自分で雇つたのではない。福本君が迎へに來てくれたのに乗つて、今日のピクニツクの場所たる、龍王塘の水源池に着く。こゝは櫻桃李花一時に咲いて、賑やかな花盛りが我等を迎へた。大いなるダムを仰いで急坂を上げれば、廣濶なる水面を見渡す處にテントは張られて、會員家族五十餘名が集つて居つた。此大連クラブは、當時國際會長たりしトムによつて、七年前發會式を上げたもので、今日再び訪ひ來つた彼にも、これを迎ふる人々にも、自ら其情の濃かなるものがある。小林會長の歡迎辭にも、其事を述べたが、トムも亦其當時を回想し、進歩の著しきを悦び、今後の發展を祈ると言つた。

やがて用意の折詰は開かれ、又幾度か乾盃を繰返した。暖かき天氣、長閑な景色、しかして此親しき友の集ひに、何をしたとて面白からざるべき蓄音器に合せておどるもあれば、モーターボートを乗りまはすものもある、櫻樹の下芳草の上、舊識新知相語つて、倦む事を知らなかつた。

午後三時過ぎに大連に歸り、同夜レデースは、ウイットモア夫人の宅に行き、トムと私は湖月の晚餐に招かれた。古澤君は自から新式の自動車を操縦して、送迎して呉れたのであるから、此上の満足はなかつた。

天長節とトムの誕生日

四月二十九日の午前十時、ハルビン丸に乗船した。天長節とて港内の艦船はみな満艦飾である。見送の人々をつなぐ五彩のテープが切れ、手にく打ちふるハンカチーフの影も消えて、我等は海上の人となつた。波頭は白く、風は舷側に鳴るけれども、追手であるから船足は早く、多少の動搖は寧ろ結構な位だ。二



Margaret Ann Swettland
Couchita Sutton

娘達合の作の漫畫

この特別室は一行に與へられ、船内を擧げての歡待に、乗込の税關吏の検査さへ、至極簡單に片付いた。連日のつかれに一同は何よりも眠る專問である。しかしトムの誕生日を思ひ出した娘達は、今晚どうして御祝ひしようかと相談に來た。私は乗船早々其用意を頼んで置いたし、又大きなお菓子は、大連俱樂部から寄贈を得て居たから、その事を話して安

心させた。

其夜の我等の食卓は、花と菓子に飾られて、豫期しないトムを驚かし、又めいくの席に置か

れた漫畫は、大に人々を笑はしめた、これは娘達が苦心の合作であつた、私共は杯を上げて、心から此よき日を祝し、娘二人は立つて、ハツピーパーステイを歌ひ、流石アメリカ娘らしい可愛さであつた、食後は廣間に私設コンサートを催し、トムの謠曲の真似が最上の傑作で、腹の皮のいたくなるまで笑つた。

門司の旅券検査

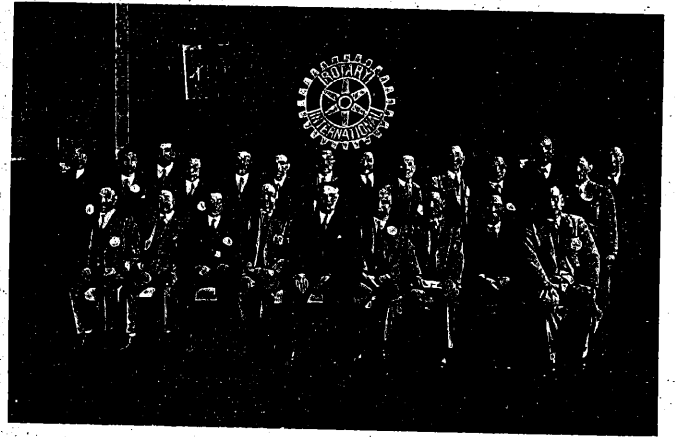
四月三十日は船中に休養し、五月一日我ハルビン丸は、拂曉六連島を航過し、午前六時半には門司の岸壁に繫留した。

こゝの旅券検査は、正服私服五六人が、法廷然とかまへたる喫煙室で行はれた、私はトム等の旅券と例の外務省の書面を提出し、何にても私自身お尋ねにお答したいと申出たが、通辯の婦人は、それはいかん本人を呼びなさいと叫んだ、其ヒステリツクの聲に驚いて他の人の顔を見たが、皆其權威を認めて居るので、致方なくトムを呼んで來た、其質問は規則通りなのであらう、しかしあの

態度も規則であらうか、通辯の英語に敬語の少ないのは誰れが規定したのか、私の度々書いた外務省の書面とは、トムの身分と旅行の目的を述べて、沿道官權の便宜を依頼したもので、此旅行中十二度の検査は、此あるが爲めに私だけで済ましたが、十三度目の今日は其效力を失つて、幻滅の悲哀を感じしめた門司のロータリヤンスも此場合に來合せて居つたから、私と感を同ふしたと思ふ。

福岡ロータリー俱樂部

五月一日午前九時我一行は門司を出發して博多に向つた、車内に偶然にも二人のロータリヤンスに會ひ、大に景氣を添へた、小樽の野口君と福岡の松田君である、是に於て沿道の説明は松田君の役目で、此地方を知らぬ私は大に助かつた、しかしこゝに解からぬのは、何故福岡へ行くのに博多で下り博多商工会議所で福岡ロータリーの例會を開くか、どちらか一つでよさうなものだ。



五月一日福岡ロータリー倶楽部例会會

博多驛には福岡の諸君が大勢出迎へ、殊に夫人が多かつた。兒玉君夫妻とは、マニラ以來の面會で、双方悦こんだのは申す迄もない。私等は導かれて先づ中野邸に少憩し、夫人令嬢等のお給仕でお茶をいたゞいた。お給仕が善いといたゞくようになる。此日は博多名物のドンタクで、市中はお祭りさきだ。市内巡覽の後、我レデースは夫人等と半饗に行き、我黨は例会に出席した。吉田副會長は古稀の人とも思はれぬ元氣で、極めて鄭重な歡迎の言葉と共に、トムの寫眞を織出した博多織を贈

つた。これは電送寫眞の方法を應用した、最新の發明品だそうだ。トムは喜色満面感謝の辭を述べ、尙ロータリーの交友と世界大會の効果を語つた。橋本君は巧に通譯して満場を傾聽せしめた。

散會後我等は常盤館に行つて、夫人等の集まりに合し、こゝで所謂ドンタクの賑やかなおどりを見た。一組おどりに去て又一組が来る、興の盡くる時はないが、歸る時間が迫まるので、餘儀なき別れを告げた。我レデースは伏紗包みの何かを貰つて、大切そうにかゝへて居つた。

門司「ロータリー」倶楽部

午後五時歸着の門司驛には、香春佐藤の兩君來り待ち、直ちに自動車を驅つて早柄の瀬戸を見る。海峡のせまき處は一キロに過ぎず、海波洶湧して凄いようだ。岸頭の神社に詣り、鈴をならしおみくじをひく。トムは大吉、マイガレットは半吉。其説明には香春君も閉口して居つた。我等の車は道を轉して山に登る。

6

ロ タリ-資料室

520

移管

其へアピンカーフを攀つる、恰かも香港の山道を行くが如しだ、山頂より望めば、關門兩市は脚下に在り、右の瀬戸内海は山をめぐらして湖水の如く、無数の島嶼其間に點綴し、左は本州南端の山々をこゑて、日本海の波濤落暉に映するを見る、海山明媚の勝此に過ぐる多からずと思はれた。

山を下る半途にして、門司俱樂部は、今日の會場であつて、出光會長初め會員家族既に集まり、直ちに晚饗會は開かれた、此夜のトムTomの演説は、國際の友誼についてであつたが、一段の出來榮で、一同多大の満足を以て聽いた。

矢野夫人は人形作りの名手だ、トム夫人に贈つた箱入人形の中、二宮翁の幼時薪を負ふて讀書するものは、ロ-タリLo-tariに意義あるものと言へよう。

私等の列車は八時半の發車で、會場を辭した時、剩すところ僅かに三十分、しかし埠頭には快速のランチが待つて居つたから、難なく海峽を横斷して下の關に乘車した、見送の諸君に御禮を言ふ間もなかつた。

翌五月二日早朝京都に着き、こゝに此旅行を終つた。

(終)